

## 不測の事態と QOL

若 狭 重 克 (QOL 研究所長 人間生活学部長)

2021 年度は夏季と冬季の両方のオリンピック・パラリンピックが開催された。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年の夏に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックが延期され、昨年の 7 月から 9 月に開催されたためである。そして、本年 2 月から 3 月には冬季北京オリンピック・パラリンピックが予定どおり開催された。

東京オリンピック・パラリンピックの 1 年延期は、多くの人びとにさまざまな影響をもたらしたのではないだろうか。例えばチケットを手に入れて 2020 年の夏を楽しみにしていた人にとっては、貴重な観戦の機会が失われた。アスリートの中には、1 年間延期されたことにより、夢であった出場のを奪われてしまった者も少なくはないであろう。また、世界的なイベントに向けて投資をして多くの収益を見込んでいたにもかかわらず、逆に大きな損失を抱える結果となった事業者等も数多くいるはずである。

これらは世界的なパンデミックという予測できない事態が生じたことともなう結果である。私たちの生活においては、病気の罹患や交通事故への遭遇、自然災害等の被災も含めてこのような事態が生じることは可能性としては排除できない。過去を振り返れば、私たちがさまざまな不測の事態を経験してきたことは周知の事実である。

一方で私たちは、体調の管理と疾病予防、交通事故の防止、自然災害発生の予知等について、探究や努力を積み重ねている。その結果として、健康の維持や安寧な毎日を確保・維持できている側面もある。しかし、これらは完璧なものではない。

QOL は、自分自身の生活に関する主観的満足感、安定感、幸福感、達成感などのこととされる。私たちは、不測の事態が残念ながら生じてしまうリスクがあることを受け入れつつ、一方でそうはならないように願い、努力をしながら過ごしているのかもしれない。そして、その過程において満足感や達成感を抱いているのではないだろうか。しかし不測の事態が生じると、抱いた満足感や達成感は程度の差はあれ失われる。そして、失ったものを回復したり新たな環境での努力の過程でまた満足感や達成感を抱くことになる。こうしたことの繰り返しによって営まれるのが私たちの生活なのだと考えられる。

オリンピック・パラリンピックに話題を戻そう。あるアスリートにとっては、延期のために出場機会を失った東京オリンピック・パラリンピックが、一生に一度の機会であったかもしれない。そうすると、オリンピック・パラリンピックでの満足感や達成感を抱く機会は二度とないことになる。その原因となったパンデミックを防ぐ術を私たちは持てないのかもしれない。だから諦めきれないかもしれないが、多くのアスリートはそれを受け入れ、違うステージでの満足感や達成感を探求するのであろうと思う。しかし、そのように割り切ることでできない理不尽な現実が存在する。

2022 年に入り北京オリンピックが終わり、パラリンピックが始まろうとしていた 2 月末、某国による隣国への侵攻が始まった。それ以降は報道等で凄惨な状況を目にする毎日である。侵攻が始まる前の隣国の状況を知っていた者にとって、侵攻後の光景は思わず目を覆いたくなるほどの惨状である。そして、突然平穏な日常を奪われた人びとのことを思うと心が痛む。

こうした理不尽極まりない行為は、不測の事態ではない。不測の事態は、多くの場合私たちが QOL を探求することまでも奪うことはないのかもしれない。だからこそ今起きている暴挙は、決してあってはならないのであろう。

私たちが人として主観的満足感、安定感、幸福感、達成感などを抱くことを侵す事態は、どんなことがあっても起こしてはならないのである。

